

また小字に二矢という所がある。ここは第二の矢を放つて落ちた所という。第一の矢の落ちた所から、約百メートル程北西の方に当る所である。

矢田野の南東の地に、川床岩磐の地があつて、ここに社を建て、大矢の鏃を祀り、磐女大神と称した。今の磐女神社である。当地方の石背国の名は、ここの岩磐より名付けられたという。

神橋の下の岩磐を、社前を流れる清流が洗い、風光明媚である。

(「梓衝郷土誌」より)

木之崎の由来

《上木之崎》

木之崎の地は、昔は原野だったといわれる。この頃、尾張国対島天王祠官、堀田出雲頭の一族堀田左近が来て、開発し村社として牛頭天王を遷して祀った。

神像は近江国比良宮祢宣、三和胤弘の作といわれ、尾張国対島天王の神像と同木に彫刻し、尾張国対島天王の神像は本木を用い、当社は先木で造った。それで先木と野とを符合して木野先、木之崎と名付けたといわれる。

その後、紀州の住人、吉田土佐守連幸が来て、氏神に熊野社を遷した。また常陸の人、命長万右エ門が来て、本国鎮守産土神を祀り三社となる。堀田氏の子孫、後に木之崎氏と改める。橋本大納言の子孫、嘉助慶長二年来て、農に帰したという。これらの子孫、連続して一村をなしたといわれる。